

令和6年度 学校関係者評価

学校名	北海道厚真高等学校
-----	-----------

組織名	学校運営協議会
評価者	・学校運営協議会委員13名 ※(校長除く)

1 本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育目標 よき市民 よき社会人を育てる ○ スクールミッション <ul style="list-style-type: none"> (1) 個々の生徒の特性等に対応した学習指導及びキャリア教育を通して、主体的な進路の選択決定をするための資質・能力を身に付けた生徒の育成 (2) 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成 (3) 適切な言語活動とおして自己表現力を高めた生徒の育成 (4) 広い視野と高い社会性を身に付けた生徒の育成 ○ スクールポリシー <ul style="list-style-type: none"> (1) 育成を目指す資質・能力に関する方針→厚真高校が目指す「5つの力」(中項目に記載) (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (3) 入学者の受入に関する方針 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標とアクションの紐づけがひつようかと思う。 ・適切で継続していただきたい。 ・適切 ・本校からの入学希望者も増えていて、魅力的な学校づくりがなされていると感じます。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 自己評価結果

大項目	中項目	評価項目・指標等	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の結果の内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善の方策の適切さ
		小項目						
学習指導	・基礎的・基本的な知識・技能 ・課題解決力:主体的に考え、行動することで、課題を把握し、改善・解決する力	(指 標) ・生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となることを目指す。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	A	肯定的回答が昨年度85.4%、今年度は94%と上昇した。職員の出組は3.4と同様。学習に向かう姿勢の乏しい生徒がいるが、学習習慣の確立に向け、継続的な指導が必要。	A	A	A
		(指 標) ・生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%以上を目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	B	B	肯定的回答が昨年度45.1%、今年度は42%と比べ減少傾向にある。職員の出組は3.1と上昇したが低い傾向。オンライン学習を活用し、家庭学習の啓発を実施したい。	A	B	A
		(指 標) ○新規 ・ICT活用し、わかりやすい授業について肯定的な回答70%以上を目指す。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	A	A	令和4年度86%、令和5年度82%、今年度は89%で、ICT利用の肯定的な回答が増加傾向である。	A	A	A
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・適切・家庭学習に関して、生徒の気持ちの切り替えも尊重しつつ、自主性の向上をサポートする取組は良いと思う。 ・ICTの活用等工夫改善がみられる。 ・朝学習→ミニテストなど頑張っていますね。 ・家庭学習を評価項目に入れる必要があるのか自体疑問です。 							
生徒指導	・人間関係構築力:自分を知り、相手の気持ちを推察することにより、良好な人間関係を築き力	(指 標) ・朝の遅刻を、1人あたり前年度比減を目指し、指導啓発を行う。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	B	B	・昨年度の実数は248名であり、今年度は315名と増加傾向にあるが、常習化している生徒が数名在籍しており、全体的には減少傾向にある。引き続き、指導の継続をおこなう。	A	B	A
		(指 標) ・いじめアンケートで、「いじめはどんな理由があっても許されない」との回答率100%を目指し、そのための啓発指導を行う。 (回答の割合が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満は評価Cとする)	B	A	・「そう思う」との回答91%、「わからない」は、今年度は低い。職員の出組は3.7と高い。次年度もいじめ問題の認識、早期の対処と組織的な対応の充実を図る。	A	A	A
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・適切・遅刻の常習化には声かけ指導、細やかな対応が大切で良い取組だと思う。 ・生徒たちの様子も明るく、活動的である。 ・日々の生活、いじめなど真面目に対応しているところを評価します。 ・開始時刻を守ることの徹底をする必要があります。 ・合わせて遅れる時の連絡の必要性を高校生の中に理解してもらうことが大切です。 							
進路指導	・協働力:互いの良さを認めながら、共に取り組む力 ・キャリア形成力:生き方や進路について考え、自らを律し行動する力	(指 標) ・進学・就職希望の年度内進路決定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	A	A	・進路決定100%、職員の出組も3.7と高い。次年度も個別の職業指導も含め、継続的に職業観・進路意識を涵養し、早期に取り組んでいく。	A	A	A
		(指 標) ・生徒の資格・検定取得等の取組として受検率100%を目指すとともに合格率の向上を図る。 (受検率が80%以上であれば評価A、60%以上が評価B、60%未満を評価Cとする)	B	B	・検定の受検率は85.5%であった。担当分掌、学年や教科と連携し、受検率・合格率の向上を図る必要がある。	A	B	A
評価者の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・適切・問題なし・職業体験では一人一人目標をしっかりと持ち取り組んでいた。 ・先生が、高年齢の方々のご努力がとても良く、希望の高校になってもらえそうです。 ・進路指導の評価が高いようですが、あまり型にはめることに重点を置かない方が良いと思います。 ・必ずしも100%でなくても良いと思います。 							

・「達成状況」項目の評価(A、B、C)は、生徒による学校評価(自己評価)アンケートの集計結果に基づく。
 ・「取組の適切さ」項目の評価(A(3.5~4.0)、B(3.0~3.4)、C(~3.0))は、教員による学校評価(自己評価)アンケートの集計結果に基づく。